



Title	Transportation Policy for the Reduction of Social Exclusion of Low-Income and Elderly People in Bangkok [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	Tansawat, Tithiwach
Citation	北海道大学. 博士(工学) 甲第13347号
Issue Date	2018-09-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/71823
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Tithiwach_Tansawat_review.pdf (審査の要旨)



[Instructions for use](#)

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士(工学)	氏名	Tansawat Tithiwach
審査担当者	主査 准教授 岸邦宏		
	副査 教授 萩原亨		
	副査 教授 内田賢悦		
	副査 教授 高野伸栄		

学位論文題名

Transportation Policy for the Reduction of Social Exclusion of Low-Income and Elderly People in Bangkok

(バンコクにおける低所得者や高齢者の社会的疎外を減少させるための交通政策に関する研究)

障害者、高齢者、低収入者といった人々のモビリティの低さは、都市内の移動が満足にできず、コミュニティにおける社会的活動やサービスを受けられないことにつながる。この状況はその人々が社会的に疎外されているという感覚を持つに至ることがある。モビリティの低い人々に対する交通政策はこれまでもなされてきたが、バンコクにおいては低収入者や高齢者の社会的疎外に着目した交通政策の評価はなされてこなかった。本研究はこの点に着目しており、バンコクにおける低所得者と高齢者の社会的疎外を減少させるための交通政策を評価、提案することを目的としている。つまり、バンコクにおける低所得者と高齢者が移動が困難であることにより社会的疎外の状況にあることを明らかにし、社会的疎外を提言するための交通政策の効果や実現可能性を検証している。論文は全体で9章から構成されている。

第1章は研究の背景、研究の目的、論文の構成について述べている。すなわち、モビリティの低い人々の移動の困難による社会的疎外の課題とその対策の重要性を指摘し、本論文に関わる研究の必要性を明らかにしている。第2章は社会的疎外について整理している。社会的疎外の定義、種類について概観し、世界における社会的疎外を減少するための政策について整理している。第3章は社会的疎外と本論文の分析手法に関する既存研究のレビューである。特に本研究の対象とする低所得者と高齢者の移動の困難に関する研究をまとめ、課題を整理している。第4章は、本研究の対象地域であるバンコクの交通システムの現状を整理している。

以上を受けて、第5章では研究の枠組みを示している。既存研究のレビューを踏まえた本研究の位置づけ、本研究の社会的疎外の定義をまとめるとともに、第6章以降の分析の枠組みを示している。

第6章では、低所得者の社会的疎外減少の交通施策として、バンコクの鉄道運賃無料施策による低所得者の社会的疎外減少を評価している。392人の利用者を対象に意識調査を行い、運賃の無料によって回答者の32.65%が社会的な余暇活動への参加の頻度が増加したこと、二項選択モデルによって低所得者は非低所得者よりも、社会的活動機会に参加できない状況において、より移動が多くなり、社会的疎外と感ずることが減少することを明らかにしている。一方、鉄道運賃の無料施策は、40.31%の利用者が非低所得者であることから、低所得者が恩恵を受けられる施策となるように、切符売り場で無料乗車券を受ける際に身分証明書を提示するべきであることを本研究は提案し

ている。

第7章では、バンコクにおける高齢者の日常の交通の満足度と社会的疎外との関係を明らかにしている。分析手法には、ロジットモデルと共分散構造分析を適用している。意識調査を行い、通院や買い物といった、行かなければならない活動よりも、私用目的のような義務が生じない活動の方への交通のサービスレベルが、社会的疎外を感じる度合いに影響が大きいことを明らかにしている。すなわち、高齢者が日常の交通サービスレベルが低いことによって、外出頻度の希望と実際に乖離が生じるときに、社会的障害を感じることを明らかにしている。

第8章は、バンコクの高齢者の社会的障害を減少させるために、乗り合いサービスの導入を提案し、成立可能性を分析している。公共交通サービスレベルの低い地域で意識調査を行い、平日と週末、それぞれ回答者の35.92%、48.54%の高齢者が乗り合いサービスを利用したいと回答している。一方、近隣の住民は高齢者の移動を支えるために、乗り合いサービスを提供することに対して、通勤経路であれば48.11%が、自由時間に送迎することでも31.13%が参加の意思を示している。ただし、サービスの提供に対しては対価を求めていることも明らかにしている。そこで、ロジット型価格感度測定法によって高齢者の支払意思額はキロ当たり24.55円としている。一方、提供者側は28円で十分な提供者数を確保できるとし、この差額を政府が補助金として支給すべきと提案している。

第9章は総括であり、本論文の成果をとりまとめるとともに、社会的疎外を減少させるための交通政策の提案をまとめている。

これを要するに、著者は、バンコクにおける低所得者と高齢者の移動困難による社会的疎外の問題を明らかにした点について新たな知見を得たものであり、今後発展途上国が成熟社会に向かう際に顕在化するであろう社会的疎外の問題に対して、交通政策の面からの解決に貢献するところ大なるものがある。よって著者は、北海道大学博士(工学)の学位を授与される資格があるものと認める。